



インストールガイド

SAP Replication Server® 15.7.1

SP200

UNIX

ドキュメント ID：DC37514-01-1571200-01

改訂：2014年3月

Copyright©2014 by SAP AG or an SAP affiliate company. All rights reserved.

このマニュアルの内容を SAP AG の明示的許可を得ずに、いかなる手段によっても、複製、転載することを禁じます。ここに記載された情報は事前の通知なしに変更されることがあります。

SAP AG およびディストリビュータが販売しているソフトウェア製品には、他のソフトウェアベンダー独自のソフトウェアコンポーネントが含まれているものがあります。国内製品の仕様は変わることがあります。

これらの資料は SAP AG および関連会社 (SAP グループ) が情報のみを目的として提供するものであり、いかなる種類の表明または保証も行わないものではなく、SAP グループはこの資料に関する誤りまたは脱落について責任を負わないものとします。SAP グループの製品およびサービスに関する保証は、かかる製品およびサービスに付属している明確な保証文書がある場合、そこで明記されている保証に限定されます。ここに記載されているいかなる内容も、追加保証を構成するものとして解釈されるものではありません。

ここに記載された SAP および他の SAP 製品とサービス、ならびに対応するロゴは、ドイツおよび他の国における SAP AG の商標または登録商標です。その他の商標に関する情報および通知については、<http://www.sap.com/corporate-en/legal/copyright/index.epx#trademark> を参照してください。

目次

表記の規則	1
インストール作業の概要	5
インストールタスクフロー	5
SAP Replication Server のコンポーネント	7
インストールの計画	9
リリースノート	9
混合バージョンのサポート	9
ライセンスの取得	10
SySAM ライセンスサーバ	11
SySAM ライセンスのチェックアウト	12
サブキャパシティライセンス	13
製品エディションとライセンスタイプ	15
システムの稼働条件	17
インストールディレクトリ構造	21
UNIX プラットフォーム上でのユニークなディ レクトリへのインストール	23
インストールディレクトリの内容とレイアウ ト	24
インストール設定オプション	25
インストールモード	25
管理作業の実行	26
Sybase ユーザアカウントの作成	26
SAP Replication Server のインストール	29
インストールメディアのマウント	29
GUI モードでのインストール	30
SAP Replication Server Data Assurance オプ ションのインストール	35
コンソールモードでのインストール	35

応答ファイルを使用したインストール	36
応答ファイルの作成	36
応答ファイルを使用した GUI モードでのイン ストール	37
サイレントモードでのインストール	37
ExpressConnect for SAP HANA データベース用 ODBC ライブラリのインストール	38
インストール時に発生する問題のトラブルシュー ティング	38
コマンドラインオプション	39
インストール後の作業	41
ログファイル	41
RSSD 用 SAP ASE	41
サンプル Replication Server の設定	42
interfaces ファイルのサーバエントリ	43
UNIX での環境変数	44
runserver ファイル	45
SAP Replication Server のアンインストール	47
GUI モードでのアンインストール	47
コンソールモードでのアンインストール	48
サイレントモードでのアンインストール	48
ヘルプと追加情報の取得	51
サポートセンタ	51
製品更新版のダウンロード	51
製品およびコンポーネントの動作確認	52
アクセシビリティ機能	52
索引	55

表記の規則

ここでは、SAP® マニュアルで使用しているスタイルおよび構文の表記規則について説明します。

表記の規則

構文要素	定義
等幅 (固定幅)	<ul style="list-style-type: none"> SQL およびプログラムコード 表示されたとおりに入力する必要のあるコマンド ファイル名 ディレクトリ名
斜体等幅	SQL またはプログラムコードのスニペット内では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照)
斜体	<ul style="list-style-type: none"> ファイルおよび変数の名前 他のトピックまたはマニュアルとの相互参照 本文中では、ユーザ指定の値のプレースホルダ (以下の例を参照) 用語解説に含まれているテキスト内の用語
太字体 sans-serif	<ul style="list-style-type: none"> コマンド、関数、ストアドプロシージャ、ユーティリティ、クラス、メソッドの名前 用語解説のエントリ (用語解説内) メニューオプションのパス 番号付きの作業または手順内では、クリックの対象となるボタン、チェックボックス、アイコンなどのユーザインタフェース (UI) 要素

必要に応じて、プレースホルダ (システムまたは設定固有の値) の説明が本文中に追加されます。次に例を示します。

次のコマンドを実行します。

```
installation directory/start.bat
```

installation directory はアプリケーションがインストールされた場所です。

構文の表記規則

構文要素	定義
{ }	中カッコで囲まれたオプションの中から必ず 1 つ以上を選択する。コマンドには中カッコは入力しない。
[]	角カッコは、オプションを選択しても省略してもよいことを意味する。コマンドには角カッコは入力しない。
()	このカッコはコマンドの一部として入力する。
	縦線はオプションのうち 1 つのみを選択できることを意味する。
,	カンマは、表示されているオプションを必要な数だけ選択でき、選択したものをコマンドの一部として入力するときにカンマで区切ることを意味する。
...	省略記号 (...) は、直前の要素を必要な回数だけ繰り返し指定できることを意味する。省略記号はコマンドには入力しない。

大文字と小文字の区別

- すべてのコマンド構文およびコマンドの例は、小文字で表記しています。ただし、複写コマンド名では、大文字と小文字が区別されません。たとえば、**RA_CONFIG**、**Ra_Config**、**ra_config** は、すべて同じです。
- 設定パラメータの名前では、大文字と小文字が区別されます。たとえば、**Scan_Sleep_Max** は、**scan_sleep_max** とは異なり、パラメータ名としては無効になります。
- データベースオブジェクト名は、複写コマンド内では、大文字と小文字が区別されません。ただし、複写コマンドで大文字と小文字が混在したオブジェクト名を使用する場合 (プライマリデータベースの大文字と小文字が混在したオブジェクト名と一致させる場合)、引用符でオブジェクト名を区切ります。次に例を示します。 **pdb_get_tables "TableName"**
- 識別子および文字データでは、使用しているソート順によっては大文字と小文字が区別されます。
 - “binary” などの大文字と小文字を区別するソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字を正しく入力してください。
 - “nocase” などの大文字と小文字を区別しないソート順を使用する場合には、識別子や文字データは、大文字と小文字をどのような組み合わせでも入力できます。

用語

SAP® Replication Server® はさまざまなコンポーネントと連携して、SAP Adaptive Server Enterprise (SAP ASE)、SAP HANA® データベース、SAP® IQ、Oracle、IBM

DB2 UDB、Microsoft SQL Server など、サポートされているデータベース間の複製を実現します。SAP Replication Server では SAP ASE を Replication Server システムデータベース (RSSD) に使用します。または、SAP® SQL Anywhere® を Embedded Replication Server システムデータベース (ERSSD) に使用します。

Replication Agent™ は、SAP ASE、SAP HANA データベース、Oracle、IBM DB2 UDB、Microsoft SQL Server 用の Replication Agent を表現するために使用される一般的な用語です。具体的な名前は、次のとおりです。

- RepAgent - SAP ASE 用の Replication Agent スレッド
- Replication Agent for Oracle
- Replication Agent for Microsoft SQL Server
- Replication Agent for UDB – Linux、Unix、Windows 用の IBM DB2
- Replication Agent for DB2 for z/OS

インストール作業の概要

SAP® Replication Server® を正常にインストールおよび設定するには、この『インストールガイド』とともに『設定ガイド』も参照してください。

『インストールガイド』には、配布メディアからハードディスクにソフトウェアをアンロードする方法が説明されています。

『設定ガイド』には、次の方法が説明されています。

- 設定に向けてシステムを準備するために必要な情報を収集する。
- SAP Replication Server を設定し、複製システムにデータベースを追加する。
- 既存の SAP Replication Server システムデータベース (RSSD) をアップグレードする。
- 既存の RSSD をダウングレードし、以前のバージョンのソフトウェアを再インストールする。
- SAP Replication Server または RepAgent のパスワード暗号化を有効にする。
- SAP Replication Server または RepAgent を起動および停止する。

複製システムの計画に役立つインストールワークシートとデータベースセットアップワークシートについては、『設定ガイド』の「SAP Replication Server のインストールと設定の準備」を参照してください。

インストールタスクフロー

タスクフローによって、計画、インストール、およびアンインストールを含む完全なパスが定義されます。

シナリオを最もよく表すパスを選択してください。

注意： このトピックを印刷し、チェックリストとして使用してください。

製品の初回インストール

1. インストールを計画し、システムの稼働条件を確認します。「インストールの計画 (9 ページ)」および「システムの稼働条件 (17 ページ)」を参照してください。
2. ソフトウェアをインストールします。「SAP Replication Server のインストール (29 ページ)」を参照してください。
3. インストール後の作業を実行します。「インストール後の作業 (41 ページ)」を参照してください。

インストール作業の概要

ソフトウェアのアンインストール

ソフトウェアをアンインストールします。「SAP Replication Server のアンインストール (47 ページ)」を参照してください。

SAP Replication Server のコンポーネント

SAP Replication Server ソフトウェアには、複数のコンポーネントの他に、さまざまなサポートファイルが含まれています。

次のソフトウェアコンポーネントが含まれています。

- SAP Replication Server
- SAP Replication Server サポートファイル (スクリプト、設定ファイルなど)
- SAP® SQL Anywhere® for Embedded Replication Server システムデータベース (ERSSD)

注意： Embedded Replication Server システムデータベース (ERSSD) には SAP SQL Anywhere が必要です。これは 64 ビット版の Linux on POWER ではサポートされていません。

- ERSSD 用 RepAgent
- ExpressConnect for Oracle (ECO) - SAP Replication Server のライセンスを保有しており、SAP Replication Server の Oracle オプションを購入した場合は、ECO を使用できます。SAP Replication Server の Oracle オプションには追加の ECO ライセンスが含まれます。
- SAP HANA® データベース (ECH) 用 ExpressConnect

インストールの計画

インストールまたはアップグレード前に、環境を準備します。

- インストールまたはアップグレードするコンポーネントとオプションを確認します。
- ライセンスを取得します。

注意： サブライセンスを使用する場合は、SySAM ライセンスサーババージョン 2.3 以降をインストールする必要があります。

- システムのすべての稼働条件がインストールシナリオおよび用途に一致していることを確認します。

リリースノート

『リリースノート』には最新情報が含まれています。

『リリースノート』には、ソフトウェアのインストールとアップグレードに関する最新情報が記載されています。

最新の『リリースノート』は、製品マニュアル Web サイト (<http://www.sybase.com/support/manuals>) から入手できます。

混合バージョンのサポート

混合バージョン環境では、SAP Replication Server はバージョン 12.6 以降である必要があります。

複写システムドメインに SAP Replication Server 15.5 以降がある場合は、複写システムドメインのシステムバージョンとルートバージョンが 12.6 以降でなければなりません。SAP Replication Server 15.5 以降は、12.6 より前のバージョンが含まれている混合バージョン環境をサポートしていません。

『設定ガイド』の「アップグレード要件」を参照してください。

注意： 12.6 より前のバージョンからのアップグレードの場合、中間アップグレードが必要になります。『設定ガイド』の「SAP Replication Server のアップグレードまたはダウングレード」を参照してください。

ライセンスの取得

製品をインストールする前に、SySAM ライセンスモデルを選択し、SAP Service Marketplace (SMP) (<http://service.sap.com/licensekeys>) からライセンスファイルを取得します。

注意： Sybase または Sybase 認定販売店から製品を購入していて、SAP Service Marketplace (SMP) にマイグレートされていない場合は、Sybase 製品ダウンロードセンタ (SPDC) (<https://sybase.subscribenet.com>) にアクセスしてライセンスキーを生成します。

1. SySAM ライセンスモデルを選択します。

ライセンスモデル	説明
[アンサーブドライセンスモデル]	ライセンスファイルからライセンスを直接取得する。アンサーブドライセンスを使用する場合は、製品をインストールするマシンにライセンスを保存する必要がある。
[サブドライセンスモデル]	複数マシンに対するライセンスの割り当てをライセンスサーバを使用して管理します。

2. サブドライセンスモデルを選択する場合、既存のライセンスサーバを使用するか、新しいライセンスサーバを使用するかを決定してください。

ライセンスサーバと製品は、インストールするマシン、オペレーティングシステム、またはアーキテクチャが同じである必要はありません。

注意： 指定したマシンに、実行している SySAM ライセンスサーバのインスタンスが1つしかない場合もあります。すでに SySAM 1.0 ライセンスサーバを実行しているマシンで SySAM 2 ライセンスサーバをセットアップするには、『SySAM ユーザーズガイド』のマイグレーションの手順に従ってください。マイグレートされたライセンスサーバは、SySAM 1.0 対応製品と SySAM 2 対応製品の両方にライセンスを供与できます。

3. ホスト ID を取得します。

ライセンスを生成するときに、ライセンスを配備するマシンのホスト ID を指定する必要があります。

- アンサーブドライセンスの場合 - 製品を実行するマシンのホスト ID。
SySAM サブキャパシティをサポートする製品を CPU ごとまたはチップごとのライセンスで実行している場合、その製品を仮想化環境で実行するには、

『SySAM ユーザーズガイド』の「SySAM サブキャパシティライセンス」を参照してください。

- サブドライセンスの場合 - ライセンスサーバを実行するマシンのホスト ID。
4. 製品をインストールする前に、Welcome メールメッセージに記載されているアクセス情報を使用して、SMP または SPDC からライセンスファイルを取得します。

注意： 販売店からソフトウェアを購入した場合は、メールメッセージでなく、Web キー証明書を受け取ることがあります。この証明書には、SPDC Web キーログインページの場合 (<https://sybase.subscribenet.com/webkey>) と、ログイン名に使用するアクティブ化キーが記載されています。

サブキャパシティライセンスを使用する予定がある場合は、**sysamcap** ユーティリティを使用した設定方法について『SySAM ユーザーズガイド』を参照してください。

SAP Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を設定したり表示したりするには、**sysadmin lmconfig** を使用します。『リファレンスマニュアル』の「**sysadmin lmconfig**」を参照してください。

参照：

- 製品エディションとライセンスタイプ (15 ページ)

SySAM ライセンスサーバ

サブドライセンスモデルを使用することにした場合は、必要なバージョンの SySAM ライセンスサーバをインストールしておいてください。

SAP Replication Server 15.7.1 SP200 は、SySAM 2.3 以降が必要です。現在のライセンスサーバのバージョンを確認するには、**sysam version** コマンドを使用します。

注意： バージョン 2.0 以前の SySAM では、このコマンドは使用できません。

SySAM の最新バージョンを <http://service.sap.com/patches> からダウンロードします。

SAP Replication Server 15.7.1 SP200 および SySAM 2.3 は、Windows、Red Hat Enterprise Linux、SuSE Linux Enterprise Server (これらはすべてバージョン 11.11.1 を使用します) を除くすべてのプラットフォームで、FlexNet Publisher バージョン 11.11 を使用します。

ライセンスサーバで使用される FlexNet Publisher のバージョンを確認するには、ライセンスサーバのログを調べるか、**lmgrd -v** コマンドを実行します。

IPv6 の設定

コマンドを使用して、環境に適したライセンスサーバのバージョンを選択してください。

SySAM ライセンスサーバのインストーラは、IPv4 専用と IPv4/IPv6 デュアルスタックライセンスサーバのバイナリの両方をインストールします。

ライセンスサーバホストで IPv6 を有効にしている場合は、IPv4 バージョンのライセンスサーバを正しく使用できません。この場合、次のように対応できます。

- ライセンスサーバホストで IPv6 TCP/IP プロトコルを無効にします。
- IPv6 を有効にしていない別の Windows ホストを使用します。
- UNIX では IPv4 と IPv6 の両方が有効になっていても、IPv4 バージョンのライセンスを使用できます。

Windows ホストで IPv6 バージョンのライセンスサーバを使用している場合は、IPv6 プロトコルを介してのみこのライセンスサーバにアクセスできます。IPv4 専用のネットワークスタックを持つホストは、この IPv6 ライセンスサーバからライセンスを取得できません。この問題を解決するには、次のいずれかを実行します。

- ライセンスサーバに Unix ホストを使用します。UNIX 上のライセンスサーバは、IPv4 と IPv6 の両方のクライアントホストに対してライセンス処理を実行できます。
- 2台の別々の Windows マシンを使用します。ネットワーク内の異なる2つのホスト上にライセンスサーバを2つ設定して、1つを IPv4 ネットワーク用、もう1つを IPv6 ネットワーク用とします。

次の SySAM スクリプトを使用すると、適切なバージョンのライセンスサーバを設定できます。

```
sysam configure [IPv6|IPv4]
```

たとえば、IPv4/IPv6 デュアルスタックバイナリの使用を設定するには、次のコマンドを使用します。

```
sysam configure IPv6
```

SySAM ライセンスのチェックアウト

SAP Replication Server がプロセッサごとのライセンスタイプを使用してライセンス供与されている場合、プロセッサ数と同数のライセンスがチェックアウトされます。ライセンス数が不足している場合は、30 日の猶予期間が与えられます。

実行中にプロセッサ数が動的に増加し、追加のライセンスをチェックアウトできなくなった場合も、30 日の猶予期間が与えられます。猶予期間内に十分な数のライセンスが使用可能にならない場合は、ソフトウェアがシャットダウンされま

す。ソフトウェアの実行中に、ソフトウェアで使用できるプロセッサ数を減らしても、必要なライセンス数は削減されません。正しいプロセッサ数で SAP Replication Server を再起動する必要があります。

『SySAM ユーザーズガイド』を参照してください。

サブキャパシティライセンス

サブキャパシティライセンスを使用すると、SySAM サブキャパシティライセンス機能を使用する物理マシンで使用可能な CPU のサブセットのライセンスを供与できます。

プラットフォームのサポート

表 1 : SySAM 仮想化サブキャパシティの互換性

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
HP	nPar	HP IA 11.31	物理パーティション
	vPar		仮想パーティション
	仮想マシンとリソースマネージャとの整合性		仮想マシン
	セキュアリソースパーティション		OS コンテナ
IBM	LPAR	AIX 6.1、AIX 7	仮想パーティション
	dLPAR		仮想パーティション
Oracle	動的システムドメイン	Solaris 10	物理パーティション
	Solaris コンテナ/Solaris リソースマネージャとのゾーン		OS パーティション
	Solaris 論理ドメイン (LDOM)		仮想パーティション

インストールの計画

ベンダ	製品	プラットフォームのサポート	仮想化の種類
Intel、AMD	VMWare ESX Server ゲスト O/S: Windows <u>注意：VMWare Workstation および VMWare Server は、VMWare ESX Server に含まれません。</u>	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ESXi 5.0 ゲスト OS: Windows 2008 R2、Windows 7、Windows 2012、および Windows 8	仮想マシン
	VMWare ESX Server ゲスト O/S: Linux、Solaris x64	VMWare ESX 3.5、ESX 4.0 および ESX 4.1、ESXi 5.0 ゲスト OS: Red Hat 5.6、Red Hat 6.1、SuSE 11、Solaris x64	仮想マシン
	Xen、KVM、DomainU: Windows <u>注意：Xen に Solaris x64 は含まれません。</u>	Windows 2008 R2、Windows 7	仮想マシン
	Xen、KVM、DomainU: Linux	Red Hat 5.6、Red Hat 6.1、SuSE 11	仮想マシン
	Hyper-V	Windows 2008 R2 ゲスト OS: Windows 2008 R2、Windows 7、Windows 2012、および Windows 8	仮想マシン

サブキャパシティライセンスの有効化

Sybase® または認定販売店から製品を購入した場合、サブキャパシティライセンスを有効にするには、事前に SAP または Sybase とサブキャパシティライセンス契約を締結する必要があります。

稼働条件

SySAM サブキャパシティライセンスを使用するときは、インストール前に SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定する必要があります。または、インストール後にライセンスキーに環境変数をコピーすることもできます。

サブキャパシティのライセンスを使用する場合は、次のいずれかを実行します。

- SYBASE_SAM_CAPACITY 環境変数を設定してからインストーラを起動します。

『SySAM ユーザガイド』の「SySAM サブキャパシティの設定」の指示に従ってください。ただし、サブキャパシティ対応の SAP 製品を起動するのではなく、インストーラを起動します。インストーラには、**sysamcap** ユーティリティが `sysam_utilities/bin` に含まれています。

- インストール時に SySAM ライセンスウィンドウで「ライセンスキーなしでインストールを続行」を選択します。インストール後に、`installed_directory/SYSAM-2_0/licenses` ディレクトリにライセンスキーをコピーします。`installed_directory` は、コンポーネントをインストールした場所です。

製品エディションとライセンスタイプ

SAP Replication Server は、Enterprise Edition (EE) と Real-Time Loading Edition (RTLE) の2つの異なる製品エディションとしてリリースされました。これらは、異なるベースとオプション機能で構成されており、別々のライセンスが必要です。

注意： SAP Replication Server Enterprise Edition (ベース SAP Replication Server、Advanced Services Option、Data Assurance オプションなど) もダウンロードやライセンス生成が可能です。詳細については、「ライセンスの取得」を参照してください。

表 2 : Enterprise Edition の機能とライセンス

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	SAP Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の SAP Replication Server の機能。	REP_SERVER
オプション	Advanced Services Option	SAP Replication Server のパフォーマンス強化機能。機能強化は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • High Volume Adaptive Replication (HVAR) • データサーバインタフェース (DSI) 効率の向上 • RepAgent エグゼキュータスレッドの効率の向上 • ディストリビュータスレッドの読み込み効率の向上 • メモリ割り付けの強化 • キューのブロックサイズの増加 • Multi-Path Replication 	REP_HVAR_ASE

機能の種類	機能	説明	ライセンス
	ExpressConnect for Oracle	SAP Replication Server が Oracle と直接接続できるようにする。Replication Server Options のマニュアルを参照。	REP_EC_ORA
	Data Assurance オプション	データ検証ツール。	『SAP Replication Server Data Assurance オプションインストールガイド』を参照。

表 3 : Real-Time Loading Edition の機能とライセンス

機能の種類	機能	説明	ライセンス
ベース	SAP Replication Server	Advanced Services Option、ExpressConnect for Oracle、Real-Time Loading 以外の SAP Replication Server の機能。	REP_SERVER
	Real-Time Loading (RTL)	SAP® Adaptive Server® Enterprise (SAP® ASE) および Oracle から SAP® IQ への複写を許可する。 注意： Real-Time Loading Edition を使用して SAP ASE または Oracle に複写することはできません。	REP_RTL_IQ
	Advanced Services Option	SAP Replication Server のパフォーマンス強化機能。機能強化は次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • High Volume Adaptive Replication (HVAR) • データサーバインタフェース (DSI) 効率の向上 • RepAgent エグゼキュータスレッドの効率の向上 • ディストリビュータスレッドの読み込み効率の向上 • メモリ割り付けの強化 • キューのブロックサイズの増加 	REP_HVAR_ASE

機能の種類	機能	説明	ライセンス
	Replication Agent for Oracle	プライマリデータサーバとして Oracle に接続できる Replication Agent を含む。	RTLE には Replication Server Options のライセンスが含まれる。

SAP Control Center のライセンス

SAP Control Center® (SAP® Replication Server®, SAP Replication Server Data Assurance オプションなど) で管理される製品の有料ライセンスをお持ちの場合、SAP Control Center のライセンスは無料で提供されます。評価ライセンスも入手可能です。

『SAP Control Center 3.3 インストールガイド』を参照してください。

SAP Replication Server と SAP IQ InfoPrimer 統合ライセンス

特別なライセンスの要件は SAP Replication Server と SAP IQ® InfoPrimer の統合に適用されます。

表 4 : SAP Replication Server と InfoPrimer 統合ライセンス

製品	機能	説明	ライセンス
SAP Replication Server	Real-Time Loading (RTL)	SAP ASE から SAP IQ への複写を許可する。 <u>注意： Real-Time Loading Edition を使用して SAP ASE または Oracle に複写することはできません。</u>	REP_RTL_IQ
IQ InfoPrimer 15.3	IQ InfoPrimer	SAP ASE からのデータの抽出およびロードと、SAP IQ でのデータの変換に使用される。	SY_INFO-PRIMER_SERVER

システムの稼働条件

SAP Replication Server をインストールする前に、システムが最新のパッチで更新され、システムの稼働条件が満たされていることを確認します。使用しているオペレーティングシステム用に提示されているバージョンより古いパッチは使用しないでください。オペレーティングシステムベンダーにより推奨されるパッチを使用するか、最新リリースノートを確認してください。

インストールの計画

項目	稼働条件
RAM	4GB 以上の RAM。
ディスク領域	<p>フルインストールの場合、必要なディスク領域の合計は約 2.5GB。</p> <p>必要なディスク領域:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 4GB を必要とする IBM AIX および HP-UX Itanium を除くすべての UNIX オペレーティングシステム上のソフトウェア、サポートファイル、ログファイル用に 950MB。 • (オプション) SAP Replication Server Data Assurance (DA) オプションをインストールする場合は 700MB 以上。 • SAP Replication Server のディスクパーティションごとに 20MB の追加領域。ディスクパーティションは、ソフトウェアと別のディスクに存在しても構わない。 <p>下記のいずれか:</p> <ul style="list-style-type: none"> • Replication Server システムデータベース (RSSD) として使用される SAP ASE データベース用ディスク領域 (Embedded RSSD (ERSSD) を使用していない場合) システムの稼働条件については、Adaptive Server Enterprise のマニュアルを参照。 • ERSSD として機能する SQL Anywhere データベース用に 80MB。データベースディレクトリ、トランザクションログディレクトリ、バックアップディレクトリ用に合計 80MB。各ディレクトリをそれぞれ別のディスクに配置。 <p>使用する複写システムのアプリケーションによっては、さらにディスク領域が必要になる場合がある。</p>

項目	稼働条件
オペレーティングシステム	<p>下記のいずれか:</p> <ul style="list-style-type: none"> • HP-UX Itanium 11.31 (64 ビット) このインストーラには、gzip ユーティリティが必要。\$PATH 環境変数に gzip へのパスが設定されていることを確認する。 • IBM AIX (64 ビット): <ul style="list-style-type: none"> • AIX 6.1 • AIX 7.1 <p>SAP Replication Server をインストールする前に、IBM XL C/C++ ランタイム (AIX) と、使用している AIX バージョンに必要な SMP ランタイムライブラリをインストールする。IBM AIX オペレーティングシステムのインストールメディアからライブラリを取得する。これらのライブラリは、IBM AIX Web サイトから入手。</p> <ul style="list-style-type: none"> • IBM XL C/C++ ランタイム (AIX) は、Web サイトの「Latest updates for supported IBM C and C++ compilers」から入手できます。 • SMP ランタイムライブラリ (AIX) は、Web サイトの「IBM XL C/C++ Enterprise Edition for AIX, Runtime Environment and Utilities」から入手できます。 <p>ライブラリがインストールされていることを確認するには、次のコマンドを発行する。</p> <pre>source \$SYBASE/SYBASE.csh cd \$SYBASE/\$SYBASE_REP/bin ldd ./repserver</pre> • Linux x86-64 (64 ビット): <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 5.5 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.18-194.el5 #1 SMP • glib - 2.5-49 • Red Hat Enterprise Linux 5.6 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.18-238.5.1.el5 #1 SMP • glibc - 2.5 • Red Hat Enterprise Linux 5.7 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.18-274.el5 • glibc - 2.5-49 (64 ビット) • Red Hat Enterprise Linux 5.8 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.18-339.el5 • glibc - 2.5-105 • (ExpressConnect for SAP HANA データベース) Red Hat Enterprise Linux 6

項目	稼働条件
	<ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 6.2 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32-131.0.15.el6.x86_64 #1 SMP • glibc - 2.12-1.47 • Red Hat Enterprise Linux 6.3 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32-220.el6.x86_64 #1 SMP • glibc - 2.12-1.80 • Red Hat Enterprise Linux 6.5 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32-431.el6.x86_64 #1 SMP • glibc - glibc-2.12-1.132 • (ExpressConnect for SAP HANA データベース) SuSE Linux Enterprise Server SLES 11 <ul style="list-style-type: none"> • SuSE Linux Enterprise Server SLES 11 Service Pack 2 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 3.0.13-0.27-default #1 SMP • glibc -2.11.3-17.31.1 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 11.1 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32.12-0.7-default #1 SMP • glibc -2.11.1-0.17.4 • Linux on IBM p-Series (Linux on POWER) (64 ビット): <ul style="list-style-type: none"> • Red Hat Enterprise Linux 5.5 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.18-53.el5 #1 SMP • glibc - 2.5-49 • Red Hat Enterprise Linux 6.0 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32-71.el6.ppc64 #1 SMP • glibc - 2.12-1.7.el6.ppc64 • glibc - 2.12-1.7.el6.ppc • Red Hat Enterprise Linux 6.5 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.32-431.el6.ppc64 #1 SMP • glibc - glibc-2.12-1.132 • SuSE Linux Enterprise Server SLES 11 <ul style="list-style-type: none"> • kernel - 2.6.27.19-5-ppc64 #1 SMP • glibc - 2.9-13.2 <hr/> <p>注意： ExpressConnect for SAP HANA データベースは、Linux on IBM p-Series ではサポートされていません。</p> <hr/> • Solaris (64 ビット) <ul style="list-style-type: none"> • Solaris 10 • Solaris 11

項目	稼働条件
サポートする プロトコル	TCP/IP

オペレーティングシステムのパッチレベル

使用しているオペレーティングシステムにパッチが必要な場合は、パッチをインストールしてから SAP Replication Server コンポーネントをインストールしてください。

現在インストールされているすべてのパッチをリストし、オペレーティングシステムのバージョンレベルを表示するには、次のように入力します。

- HP-UX の場合、次のように入力します。

```
/usr/sbin/swlist -l patch
```

- IBM AIX の場合、次のように入力します。

```
/usr/sbin/instfix -a
```

- Solaris の場合、次のように入力します。

```
showrev -p
```

- Linux の場合、次のように入力します。

```
rpm -q -a
```

Linux カーネルバージョン 2.4.x を提供する Linux のディストリビュータから、必要なすべてのライブラリを入手できます。ライブラリが古いまたは見つからないという警告メッセージが表示された場合は、Linux のディストリビュータの Web サイトから必要なライブラリをダウンロードしてください。

インストールディレクトリ構造

このディレクトリ構造は、インストールされるコンポーネントに使用するインストールディレクトリ、サブディレクトリ階層、命名規則の概要を示します。

SAP Replication Server のほとんどのコンポーネントは、実行プログラム、インストールツールと設定ツール、コンポーネントに必要な表示関連ファイルとともに、独自のサブディレクトリにインストールされます。サブディレクトリの命名規則では、REP (SAP Replication Server の場合) や OCS (Open Client™ および SAP® Open Server™ の場合) などのコンポーネント識別子と、ソフトウェアリリースバージョンが含まれます。

バージョン 15.7.1 SP200 には、新しいバージョンの SAP Replication Server と多数のサポートコンポーネントが含まれています。他の製品には、同じコンポーネントの旧バージョンが含まれていることがあります。既存の製品と同じディレクトリにバージョン 15.7.1 SP200 をインストールしても、既存の製品には影響しませ

ん。ただし、環境変数が一部変わる可能性があります。この場合、個々の製品が動作するように、環境変数を再設定してください。

SAP ASE、Open Client、および SAP Open Server バージョン 15.5 以降と同じディレクトリにバージョン 15.7.1 SP200 をインストールできます。

警告！ バージョン 15.7.1 SP200 は、InstallShield インストーラを使用してインストールされている古い製品と同じディレクトリにインストールしている場合は、アンインストールしないでください。アンインストールした場合、製品が正しく動作しなくなることがあります。

バージョン 15.7.1 SP200 は同じ \$SYBASE ディレクトリ内のバージョン 12.6 以降の上にインストールできます。このことを行うと、サンプル Replication Server である SAMPLE_RS 用の interfaces ファイルに重複したエントリが作成されます。**rs_init** は、重複エントリについての警告を生成し、interfaces ファイル内で最初に検出された SAMPLE_RS のインスタンスの方を使用します。

『設定ガイド』の「既存のディレクトリを使用したアップグレードとダウングレード」を参照してください。

制約

バージョン 15.7.1 SP200 を次の製品の上にはインストールしないでください。

- SAP Replication Server バージョン 12.5 以前
- SAP ASE バージョン 12.5.0.x 以前
- SAP ASE バージョン 12.x (64 ビット)
- Open Client および SAP Open Server バージョン 12.5.0 以前
- SAP® OpenSwitch™ バージョン 12.5 以前
- DirectConnect™ バージョン 12.5 以前

上記の旧バージョンの製品の上にインストールすると、これらの製品の機能が損なわれ、他の製品にも悪影響を及ぼす可能性があります。このようなインストールを実行した場合、アンインストールによって元の状態に戻すことはできません。アンインストールすると、SAP Replication Server バージョン 15.7.1 によって更新された旧製品の必須コンポーネントが削除される可能性があるためです。したがって、バージョン 15.7.1 SP200 をインストールする前に、現在のディレクトリをバックアップしておくことをおすすめします。

SAP ASE バージョン 15.0.x が格納されている既存のインストールディレクトリに SAP Replication Server 15.7.1 SP200 をインストールする場合、新しいファイルの上に古い locales または charset ファイルをインストールするかどうかを確認するメッセージが表示されることがあります。これらのファイルの最新バージョンを保持するには、[すべていいえ] を選択します。

共有コンポーネントは、コンポーネントのサブディレクトリとは別のサブディレクトリにインストールされます。たとえば、サブディレクトリが `$SYBASE/REP-15_5` である場合、Open Client は `$SYBASE/OCS-16_0` にインストールされます。SAP SQL Anywhere は SAP Replication Server 専用であるため、例外として `$SYBASE/REP-15_5/ASA16` にインストールされます。また、バージョン 15.7.1 SP200 には、`$SYBASE/REP-15_5/ASA12` にインストールされる SAP SQL Anywhere バージョン 12 も含まれます。SAP SQL Anywhere バージョン 12 は、SAP SQL Anywhere の旧バージョンをインストールしている場合に ERSSD データベース形式をアップグレードするのに使用されます。

注意： 64 ビット版 Linux on POWER (IBM pSeries) プラットフォームでは、ASA12 ディレクトリと ASA16 ディレクトリのどちらも使用できません。

その結果、このディレクトリ構造では、既存の `$SYBASE` ディレクトリ構造へのインストールが可能であるだけでなく、特定のコンポーネントの複数バージョンをインストールして使用できます。

ヒント： `$SYBASE` サブディレクトリを参照するカスタムアプリケーションまたはカスタムスクリプトがすでにインストールされている場合は、新しいインストールディレクトリ構造が反映されるように、それらのアプリケーションまたはスクリプトを変更してください。

診断サーバ (`REP-15_5/bin/repserver.diag`) は内部処理に関する情報を取得して表示します。このプログラムは削除しないでください。SAP 製品サポートでは、これらの問題を診断および解決するために、このプログラムを使用するようお願いすることがあります。

注意： インストールするコンポーネントとバージョンにより、実際のディレクトリ構造はマニュアルの説明とは異なる場合があります。

UNIX プラットフォーム上でのユニークなディレクトリへのインストール

UNIX プラットフォーム上の環境変数に影響することなく、ユニークなディレクトリに SAP Replication Server をインストールできます。

注意： ユニークなインストールディレクトリにソフトウェアをインストールする際には、2つの `interfaces` ファイルの管理が必要になります。1つは SAP Replication Server コンポーネント用、1つは他のアプリケーション用です。

参照：

- UNIX での環境変数 (44 ページ)
- GUI モードでのインストール (30 ページ)

インストールディレクトリの内容とレイアウト

コンピュータ上のインストールディレクトリにインストールされるコンポーネントリストを確認します。

\$SYBASE 内:

- charsets - 文字セットとソート順。
- collate - Unicode。
- config - 設定ファイル (mnemonic.dat、objectid.dat、trusted.txt など)。
- interfaces (interfaces ファイル)。
- locales - Open Client および SAP Open Server 用のローカライゼーションファイルと、SAP Replication Server が使用するその他のコンポーネント。SAP Replication Server 固有のローカライゼーションファイルは含まれません。
- log - インストールプロセスのログファイル。
- OCS-16_0 - Open Client および SAP Open Server のディレクトリとファイル (bin、config、devlib、include、lib、lib3p、sample、scripts、sybhelp、xappdefaults など)。
- REP-15_5 - バージョン 15.7.1 SP200 ファイル (ASA12、ASA16、bin、certificates、connector、devlib64、doc、init、install、lib64、lib3p64、locales、REFIMP-01_0、samp_repserver、scripts、sample、sysam、ThirdPartyLegal、upgrade など)。
- Sybase_Install_Registry - 製品レジストリ情報を保管するために使用され、インストールおよびアンインストールしたソフトウェアのバージョンが記録されます。si_reg.xml ファイルは \$SYBASE/Sybase_Install_Registry ディレクトリにインストールされます。

警告! si_reg.xml を変更または削除すると、今回のインストール作業の後にソフトウェアをインストールまたはアンインストールするときに、インストールしたコンポーネントのバージョンをインストーラで正確に管理できなくなります。

- sybuninstall - アンインストーラでソフトウェアのアンインストールに使用されるファイル。
- SYSAM-2_0 - ソフトウェアの License Manager ファイル (bin、licenses、locales、log など)。Linux には META-INF という License Manager ファイルもあります。
- SYBASE.csh、SYBASE.sh、SYBASE.env - 環境変数の再設定に使用する、インストーラによって作成されるファイル。

インストール設定オプション

実際の設定に該当するインストールオプションを決定します。[標準] がデフォルトオプションです。

setup プログラムには、次のインストールオプションがあります。

- 標準 (デフォルト) - ほとんどのユーザにとって役立つと考えられるコンポーネントがインストールされます。このインストールでは、英語の言語モジュールと、そのモジュールでサポートされている文字セットだけがインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- フル - サポートされるすべての言語モジュールを含むすべてのコンポーネントがインストールメディアからインストールされます。インストールが開始される前に、インストールされるコンポーネントのリストと必要な総ディスク領域が表示されます。
- カスタム - インストールするコンポーネントを選択できます。上級者向けです。

注意： 選択した他のコンポーネントを実行するために特定のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされます。

インストールモード

使用するインストールモードを決定します。GUI モードがデフォルトモードです。

次のモードのいずれかを使用して、SAP Replication Server をインストールできません。

- グラフィカルユーザインタフェース (GUI) - 対話型ユーザモードでコンポーネントをインストールできます。
- コンソール - コマンドライン環境でコンポーネントをインストールできます。
- 応答ファイル - 応答ファイルを記録または作成できます。応答ファイルを使用すると、次の 2 とおりの方法でソフトウェアをインストールできます。
 - サイレント - インストールの各設定を応答ファイルに保存し、ユーザによる操作を必要としないでソフトウェアをインストールします。これは、複数のマシンに同一のインストール作業を行う場合に便利です。
 - 応答ファイルを使用した対話型インストール - 対話形式でインストールしますが、すべての応答がすでに入力されているため、すべてのデフォルト値を受け入れ、応答ファイル内の応答に従ってソフトウェアをインストールできます。この方法は、一部のサイトでソフトウェアを非グラフィカル

ユーザインタフェース環境でインストールしており、いくつかの変更を加えて標準インストールを実行する必要がある場合に便利です。

管理作業の実行

管理作業は、インストールプロセスを開始する前に完了しておく必要があります。

1. 現在の複製システムをバックアップします。
2. 圧縮されたファイルを UNIX マシンで展開できることを確認します。展開するには、次のコマンドを使用します。

.zip ファイル	unzip コマンドを使用
.tgz ファイル	gzip または GNU Tar を使用

3. “sybase” ユーザアカウントを作成し、このアカウントに read、write、execute の各パーミッションを付与します。
4. インストールディレクトリとなるロケーションに、十分な領域があることを確認します。
5. ネットワークソフトウェアが設定されていることを確認します。

SAP Replication Server と SAP クライアントアプリケーションが、ネットワークに接続されていないマシンにインストールされている場合でも、SAP ソフトウェアはネットワークソフトウェアを使用します。

6. RSSD を使用している場合、SAP ASE が起動し、実行中であることを確認します。

Sybase ユーザアカウントの作成

所有権と権限が一貫した状態で SAP 製品ファイルとディレクトリが作成されるようにするには、システム管理者アカウントを作成します。

読み取り権限、書き込み権限、実行権限を持つシステム管理者などのユーザが、インストールと設定のタスクをすべて実行する必要があります。

1. システム管理者アカウントを作成するには、既存のアカウントを選択するか、新しいアカウントを作成して、ユーザ ID、グループ ID、パスワードをアカウントに割り当てます。

このアカウントは、“sybase” ユーザアカウントと呼ばれることもあります。新しいユーザアカウントを作成する方法については、使用しているオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

他の SAP ソフトウェアがすでにインストールされている場合、“sybase” ユーザはすでに存在します。

2. このアカウントを使用してコンピュータにログインできることを確認してください。

インストールの計画

SAP Replication Server のインストール

選択した方法を使用してソフトウェアをインストールします。

前提条件

インストール計画の作業を完了します。

手順

1. インストール方法を選択します。
 - GUI モード (推奨)
 - コンソールモード
 - 応答ファイル
2. 選択した方法の手順に従います。
3. インストール後の手順を実行します。

インストールメディアのマウント

CD または DVD からインストールする場合は、インストールメディアをマウントします。

mount コマンドのロケーションはサイトごとに異なるため、以下に示すロケーションとは異なる場合があります。表示されているパスを使用しても適切なドライブにインストールメディアをマウントできない場合は、ご使用のオペレーティングシステムのマニュアルを参照するか、システム管理者に問い合わせてください。

- HP-UX の場合

ログアウトしてから “root” 権限で再びログインし、次のコマンドを発行します。

```
mount -F cdfs -o ro device_name /mnt/cdrom
```

続いて、“root” 権限でログアウトし、“sybase” 権限で再びログインします。

- IBM AIX の場合

“sybase” としてログインし、次のコマンドを発行します。

```
mount -v 'cdrfs' -r device_name /mnt/cdrom
```

- Solaris の場合:

オペレーティングシステムによって、CD または DVD は自動的にマウントされます。“sybase” としてログインします。CD または DVD の読み込みエラーが発

生じた場合は、オペレーティングシステムのカーネルをチェックして、ISO 9660 オプションがオンになっていることを確認してください。システムに CD または DVD がすでにインストールされている場合、#記号は、インストールプロセスの妨げとなります。現在の CD または DVD をインストールする前に、次のいずれかを実行してください。

- システムを再起動する。または、
- CD または DVD を取り出す。/vol/dsk にある *Volume Label* ファイルを削除し、CD または DVD を再度挿入する。
- Linux および Linux on POWER の場合
“sybase” としてログインし、次のコマンドを発行します。

```
# mount -t iso9660 /dev/cdrom /mnt/cdrom
```

参照：

- GUI モードでのインストール (30 ページ)

GUI モードでのインストール

インストーラは、対象ディレクトリを作成し、選択したコンポーネントをすべてそのディレクトリにインストールします。

前提条件

SAP Replication Server をインストールするドライブに、コンポーネントをインストールできるだけの十分な空きディスク領域があることを確認します。さらに、インストールプログラム用に 1GB 以上の空きディスク領域があることも確認します。

手順

1. インストールメディアを適切なドライブに挿入するか、SAP Service Marketplace (SMP) から SAP Replication Server インストールイメージをダウンロードして抽出します。
2. SMP から製品をダウンロードした場合は、インストールイメージを抽出したディレクトリに移動し、インストーラを起動します。

```
./setup.bin
```

CD または DVD からインストールする場合は、CD または DVD をマウントし、インストーラを起動します。

- HP-UX の場合

```
cd /cdrom
./setup.bin
```

- IBM AIX の場合

```
cd /device_name
./setup.bin
```

- Solaris の場合

```
cd /cdrom/Volume Label
./setup.bin
```

- Linux および Linux on POWER の場合

```
cd /mnt/cdrom
./setup.bin
```

構文の説明は次のとおりです。

- *cdrom* および */mnt/cdrom* は、CD または DVD ドライブをマウントしたときに指定したディレクトリ (マウントポイント) です。
- *device_name* は、CD または DVD デバイスドライブの名前です。
- *setup.bin* は、SAP Replication Server をインストールする実行ファイルの名前です。

テンポラリディスク領域のディレクトリでディスク領域が不足している場合は、環境変数 *IATEMPDIR* を *tmp_dir* に設定してから、再度実行します。*tmp_dir* は、インストールプログラムがテンポラリインストールファイルを書き込むテンポラリディレクトリの名前です。*tmp_dir* を指定する場合は、そのフルパスを指定します。

3. [開始画面] ウィンドウで、[次へ] をクリックします。
4. SAP Replication Server をインストールする場所を指定します。

インストールパスにダブルバイト文字、一重引用符、または二重引用符は含めなくてください。これらの文字はインストーラで認識されず、エラーが表示されます。

オプション	説明
[選択] をクリックする。	ディレクトリを参照して、インストールディレクトリを選択する。
新しいディレクトリパスを入力する。	新しいディレクトリを作成する。
[デフォルトのフォルダに戻す] をクリックする。	入力または選択したディレクトリではなく、デフォルトディレクトリを使用する。

- 選択したインストールディレクトリが存在しない場合は、[はい] をクリックしてインストールディレクトリを作成します。

- 選択したインストールディレクトリが存在し、すでに現在のインストールが含まれている場合は、旧バージョンを上書きしようとしているという警告が表示されます。[次へ]をクリックします。

更新するバージョンとインストールする SAP Replication Server のバージョンとの互換性がチェックされます。バージョンに互換性がない場合は、互換性のないバージョンのアップグレードのチェックダイアログが表示され、次のようなメッセージが表示されます。

```
Warning: The current "SAP Replication Server" in your
destination directory is not compatible with this version
upgrade; some bug fixes may be unavailable
if you proceed. See the release note for more information.
```

ご使用の SAP Replication Server が緊急バグ修正リリース、ワンオフリリース、コントロールドリリース、インストロメンタルリリースなどの帯域外リリースの場合も、同様のメッセージが表示されることがあります。

```
Warning: The current "SAP Replication Server" in your
destination directory is an out-of-band release; some bug fixes
may be unavailable if you proceed.
Verify that the bug fixes you need are in this newer version
before proceeding with the upgrade.
```

このようなメッセージが表示された場合は、[キャンセル]をクリックしてインストールプロセスを終了します。エラーを無視してインストールを続行する場合は、[互換性のないバージョンのインストールを続行します]を選択し、[次へ]をクリックします。

警告！ 互換性のないバージョンにアップグレードすると、ソフトウェアリグレッションが発生するおそれがあります。インストールをキャンセルし、互換性のあるバージョンの SAP Replication Server を入手することをおすすめします。

サイレント (無人) モードでインストールを実行している場合で、バージョン間に互換性がないときは、次の引数を指定してインストーラを再実行するように求められ、インストーラが終了します。

```
DALLOW_UPGRADE_TO_INCOMPATIBLE_VERSION=true
```

5. インストールの種類を選択します。

オプション	説明
[標準]	デフォルトコンポーネントがインストールされる。一般的なユーザ向け。
[フル]	サポートされるすべての言語モジュールを含むすべてのコンポーネントがインストールされる。

オプション	説明
[カスタム]	インストールするコンポーネントを選択できる。選択したコンポーネントを実行するために一部のコンポーネントが必要な場合は、それらのコンポーネントが自動的にインストールされる。

[次へ] をクリックします。

- 地域を選択し、ライセンス契約に同意したら、[次へ] をクリックします。
- [SySAM ライセンスサーバ] ウィンドウで次のことを行います。

オプション	選択内容
[ライセンスキーを指定]	<p>次のいずれかを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> [検索] をクリックしてライセンスファイルを選択する。 複数のライセンスファイルを選択するには、[Shift] キーを押したままクリックするか、[Ctrl] キーを押したままクリック。ライセンスウィンドウ枠にライセンス情報が表示される。 ライセンスウィンドウ枠にライセンス情報を直接コピーして貼り付ける。 <p>[次へ] をクリック。</p> <p>サブドライセンスキーを指定する場合は、新しい SySAM ライセンスサーバをインストールするよう求められる。以下のいずれかを選択する。</p> <ul style="list-style-type: none"> [次へ] - 新しい SySAM ライセンスサーバをインストール。インストールの指示に従う。 [前へ] - 同一のホストに既存の SySAM ライセンスサーバが存在する場合、[以前に配備したライセンスサーバを使用] を選択する。
[以前に配備したライセンスサーバを使用]	<p>次を入力する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライセンスサーバが稼働しているマシンのホスト名。 ポート番号 (使用しているポート番号がデフォルトではない場合) <p>[次へ] をクリック。</p>

オプション	選択内容
[ライセンスキーなしでインストールを続行]	<p>いずれのコンポーネントについてもライセンスを所有していない場合はこのオプションを選択し、[次へ]をクリックして続行する。</p> <p>30 日の猶予期間中は、ライセンスなしでもコンポーネントをインストールして使用できる。猶予期間後も継続して使用する場合は、有効なライセンスを取得し、SAP Replication Server ライセンスインストーラを使用してこれらのライセンスをインストールする。</p>

SAP Replication Server でライセンスの管理に関連する情報を設定したり表示したりするには、**sysadmin lmconfig** を使用します。『リファレンスマニュアル』の「sysadmin lmconfig」を参照してください。

8. 必要に応じて、SySAM 電子メール構成を設定します。[次へ]をクリックします。
9. インストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を確認し、[インストール]をクリックします。
10. [サンプル Replication Server 起動] ウィンドウで、次を選択します。

オプション	説明
[はい]	<p>サンプル Replication Server を設定し、起動する。インストーラが、サンプル Replication Server の設定情報を表示する。この情報を記録する。</p> <p>パスワード項目に最大 30 バイト入力できる。状況に応じて次のようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> • シングルバイト文字 - 6 ~ 30 文字を入力。 • ダブルバイト文字 - 3 ~ 15 文字を入力。
[いいえ]	<p>インストールした後に、フル機能の SAP Replication Server を手動で設定し、サンプルの Replication Server を起動する。インストーラから、サンプルの Replication Server ディレクトリを作成するか、インストールをそのまま続行するか尋ねるメッセージが表示される。次のいずれかを選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> • [はい] - サンプル Replication Server を起動することなく、サンプルの Replication Server ディレクトリを作成する。 • [いいえ] - インストールを続行する。

注意： サンプル Replication Server は Linux on POWER 上では起動できません。ERSSD が、Linux on POWER 上では使用できない SAP® SQL Anywhere® サーバを必要とするためです。

[次へ] をクリックします。

11. [完了] をクリックします。

次のステップ

インストールが有効であり、正しく実行されたことを確認します。

- log ディレクトリ内のログファイルを表示して、エラーがないか確認します。有効なインストールの場合は、“ERROR” という単語が含まれていません。
- Sybase_Install_Registry ディレクトリ内の si_reg.xml ファイルの日付に現在のインストールの日付が反映されていることを確認します。

参照：

- インストール後の作業 (41 ページ)
- runserver ファイル (45 ページ)
- インストールメディアのマウント (29 ページ)

SAP Replication Server Data Assurance オプションのインストール

SAP Replication Server Data Assurance (DA) オプションは、SAP Replication Server の別途ライセンス製品として使用できます。インストールイメージを抽出した **setup** プログラムを取得します。

詳細については、『SAP Replication Server Data Assurance オプションインストールガイド』を参照してください。

コンソールモードでのインストール

インタフェースにウィンドウ操作を使用しない場合やカスタムインストールスクリプトを作成する場合は、コマンドラインインストールを選択します。

前提条件

インストーラをコンソールモードで起動します。インストーラが自動的に起動する場合は、[キャンセル] をクリックして GUI インストールをキャンセルし、端末またはコンソールから **setup** プログラムを起動します。

手順

コンポーネントを対話型テキストモードでインストールする手順は、**setup -i console** を使用してコマンドラインからインストーラを実行する点と、テキストを入力してオプションを指定する点を除き、GUI モードの手順と同じです。

1. コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
./setup.bin -i console
```

2. 表示されるメッセージに従って、インストールを実行します。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

参照：

- GUI モードでのインストール (30 ページ)

応答ファイルを使用したインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

サイレント (無人) インストールを実行するには、インストーラを実行し、指定したインストール設定が含まれる応答ファイルを指定します。

応答ファイルの作成

インストール時の応答を応答ファイルに記録します。この応答ファイルは編集可能なテキストファイルであり、今後のインストールで使用する前に応答を変更できます。

注意： バージョン 15.6 以降では、再設計されたインストールプログラムが使用されます。このインストールプログラムは、15.5.x 以前のバージョンで生成された応答ファイルと互換性がありません。これら古いバージョンの応答ファイルは使用しないでください。代わりに 15.7.1 SP200 のインストールから新しい応答ファイルを作成してください。

GUI またはコンソールモードでインストールするときに、**-r** コマンドライン引数を指定することで、インストールウィザードのプロンプトへの応答が記録され、インストールウィザードの終了時に応答ファイルが作成されます。

インストール時に応答ファイルを生成するには、次のコマンドを入力します。

```
./setup.bin -r responseFileName
```

応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフルパスを指定します。次に例を示します。

```
/home/sybase/REP/ResponseFile.txt
```


応答ファイルを使用した GUI モードでのインストール

応答ファイルを使用した対話型インストールでは、応答ファイルによって指定されたデフォルト値を受け入れることも、別の値を入力することもできます。これは、類似はしているものの設定が異なる SAP Replication Server の複数のインスタンスをインストールする場合に役立ちます。

前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

手順

応答ファイルを使用した GUI インストールを実行するには、次のように入力します。

```
./setup.bin -f responseFileName
```

応答ファイルの名前を指定する場合は、そのフルパスを指定します。

参照：

- コマンドラインオプション (39 ページ)
- 応答ファイルの作成 (36 ページ)
- GUI モードでのインストール (30 ページ)

サイレントモードでのインストール

通常、企業全体で複数のシステムを更新する場合は、無人 (サイレント) インストールを実行します。

前提条件

インストール応答ファイルを作成します。

サイレント (無人) インストールでは、ユーザによる操作は伴いません。また、すべてのインストール設定情報は、応答ファイルから取得されます。これは、複数の同一インストールを行う場合、またはインストールを完全に自動化する場合に役立ちます。

手順

サイレントモードでインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
./setup.bin -f responseFileName -i silent  
-DAGREE_TO_SAP_LICENSE=true
```

構文の説明は次のとおりです。

- `responseFileName` - 選択したインストールオプションを含むファイル名の絶対パス。
- **-D** - SAP ライセンス契約の内容に同意することを指定します。

GUI 画面がないことを除けば、インストーラの動作はすべて同じです。サイレントモードのインストール結果は、GUI モードで同じ応答を行った場合とまったく同じになります。

注意：サイレントモードでのインストール時に、SAP ライセンス契約に同意する必要があります。次のいずれかの方法を使用できます。

- オプション `-DAGREE_TO_SAP_LICENSE=true` をコマンドライン引数に含めます。
 - 応答ファイルを編集して、プロパティ `AGREE_TO_SAP_LICENSE=true` を含めます。
-

参照：

- コマンドラインオプション (39 ページ)
- 応答ファイルの作成 (36 ページ)
- GUI モードでのインストール (30 ページ)

ExpressConnect for SAP HANA データベース用 ODBC ライブラリのインストール

ExpressConnect for SAP HANA データベース (ECH) は SAP HANA ODBC ドライバを使用して SAP HANA データベースと対話します。ただし、SAP Replication Server には、必要な SAP HANA ODBC ドライバは含まれていません。SAP Replication Server をインストールした後、SAP Service Marketplace からこれらのライブラリをダウンロードして、インストールしてください。

『リリースノート』の「ExpressConnect SAP HANA データベース用 ODBC ライブラリのインストール」を参照してください。

インストール時に発生する問題のトラブルシューティング

インストール時に発生した問題をトラブルシューティングするには、インストーラをデバッグモードに設定します。

インストーラを実行する前に、環境変数 `LAX_DEBUG` を `true` に設定します。インストーラによって、インストーラの問題のデバッグに役立つ追加の詳細なインストール情報が生成されます。

ヒント： インストール中にエラーが発生した場合は、インストールログファイルでインストールプロセスの記録を確認してください。ログファイルは、`$$SYBASE/1og` にあります。

コマンドラインオプション

コンソールモードでの SAP Replication Server のインストールまたはアンインストールのためのオプションです。

オプション	目的
-i console	コンソール interface モードを使用する。このモードでは、インストール中のメッセージは Java コンソールに表示され、ウィザードはコンソールモードで実行される。
-i silent	製品をサイレントモードでインストールまたはアンインストールする。インストールまたはアンインストールはユーザとの対話なしで実行される。
-D	カスタム変数およびプロパティを渡す。たとえば、インストーラの実行時にデフォルトのインストールディレクトリを上書きするには、次のように入力する。 <pre>install_launcher_name -DUSER_INSTALL_DIR=/sybase</pre>
-r	応答ファイルと参照を生成する。
-f	応答ファイルを参照する。
-l	インストーラのロケールを設定する。
-¥?	インストーラのヘルプを表示する。

インストール後の作業

SAP Replication Server のインストール後、適宜、インストール後の作業を実行します。

『設定ガイド』を参照してください。

ログファイル

ログファイルに格納されている SAP Replication Server の設定情報を確認します。

- インストーラエラーログファイル:
\$SYBASE/log
- サンプル Replication Server のエラーログ:
\$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver/SAMPLE_RS.log

注意： インストーラは、インストール中にサンプル Replication Server を起動すると選択した場合のみ、SAMPLE_RS.log ファイルを作成します。

- サンプル Replication Server SQL Anywhere のエラーログ:
\$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver/errorlog/

注意： インストーラは、インストール中にサンプル Replication Server を起動しないでサンプル Replication Server ディレクトリを作成すると選択した場合のみ、errorlog ディレクトリを作成します。

- **rs_init** ログファイル:
\$SYBASE/REP-15_5/init/logs/logmdd.xxx
次に例を示します。 \$SYBASE/REP-15_5/init/logs/log1106.001
- SAP Replication Server ログファイル:
\$SYBASE/REP-15_5/install/rs_name.log
次に例を示します。 \$SYBASE/REP-15_5/install/REP_redtail.log

RSSD 用 SAP ASE

SAP ASE に格納されている RSSD を起動します。

SAP ASE に格納されている RSSD を使用するには、SAP ASE データベースをインストールします(まだインストールしていない場合)。使用しているプラットフォーム用の『Adaptive Server Enterprise インストールガイド』を参照してください。

インストール後の作業

インストールが成功した後、SAP ASE を起動します。使用しているプラットフォーム用の『Adaptive Server Enterprise 設定ガイド』を参照してください。

注意： Adaptive Server Enterprise をアップグレードする予定であり、すでに複写データベースがある場合は、使用しているプラットフォームに対応した『Adaptive Server Enterprise インストールガイド』を参照してください。

サンプル Replication Server の設定

インストール時、サンプル Replication Server を設定していない場合、インストーラにより作成されるリソースファイルを使用してサンプル Replication Server を設定および起動できます。

インストール時に、サンプル Replication Server を設定および起動するよう求めるプロンプトが表示されます。ユーザの選択内容にかかわらず、インストーラによってサンプル Replication Server 用のリソースファイル `$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver/SAMPLE_RS.res` が作成され、`interfaces` ファイルが更新されます。

サンプル Replication Server をインストール後に設定および起動するには、このリソースファイルを使用します。サンプル Replication Server のリソースファイルによって ERSSD が作成されます。

コマンドプロンプトで次のように入力します。

```
cd $SYBASE/REP-15_5/samp_repserver
./rs_init-SAMPLE_RS.sh
```

このスクリプトの `rs_init` ユーティリティによって、コマンドが実行時に表示され、出力がログに書き込まれます。

サンプル Replication Server の設定および起動中にエラーが発生した場合は、ログファイル `$SYBASE/REP-15_5/init/logs/logmdd.xxx` を確認してください。

- *mm* - 月
- *dd* - 日
- *xxx* - その日のログの該当するインスタンス番号

サンプル Replication Server に関連するすべてのファイルとログは、`$SYBASE/REP-15_5/samp_repserver` ディレクトリにあります。

表 5 : サンプル Replication Server の設定情報

サンプル Replication Server 項目	定義
名前	<i>SAMPLE_RS</i>
ポート	11752
ユーザ名	<i>sa</i>
パスワード	<i>SAMPLE_RS</i> の <i>sa</i> ユーザパスワード。 パスワード項目には最大 30 バイト入力できる。状況に応じて次のとおり。 <ul style="list-style-type: none"> • シングルバイト文字 - 6 ~ 30 文字を入力。 • ダブルバイト文字 - 3 ~ 15 文字を入力。
ERSSD サーバ名	<i>SAMPLE_RS_ERSSD</i>
ERSSD サーバポート	11751
ERSSD ユーザ名	<i>SAMPLE_RS_RSSD_prim</i>
ERSSD パスワード	<i>SAMPLE_RS</i> のパスワードと同じ。

『設定ガイド』の「**rs_init**による SAP Replication Server の設定とデータベースの追加」および『ASE 間複写クイックスタートガイド』の「**SAMPLE_RS**」を参照してください。

interfaces ファイルのサーバエントリ

dsedit ユーティリティを使用してネットワーク接続情報を修正します。

プライマリ SAP ASE またはレプリケート SAP ASE のいずれも SAP Replication Server のコンピュータ上にない場合、SAP Replication Server の **interfaces** ファイルのデフォルトのホスト名 "localhost" を実際のサーバ名に変更する必要があります。 **interfaces** ファイルを更新するには、**dsedit** を使用します。

dsedit を使用すると、**interfaces** ファイルに保存されたネットワーク接続情報を作成および修正できます。このユーティリティは `$SYBASE/$SYBASE_OCS/bin` にあります。

ヒント： 使用しているシステムに X-Windows がインストールされていない場合、**interfaces** ファイルのサーバエントリの設定には **dscp** を使用します。このユーティリティは `$SYBASE/$SYBASE_OCS/bin` にあります。

インストール後の作業

『Adaptive Server Enterprise ユーティリティガイド』の「**dsccp**」を参照してください。

SYBASE.csh または SYBASE.sh で、必要な環境変数を設定してから、**dsedit** を実行します。

『Adaptive Server Enterprise ユーティリティガイド』の「**dsedit**」を参照してください。

UNIX での環境変数

インストーラは、PATH などの必須システム環境変数、および新しくインストールされたソフトウェアにより使用される追加環境変数を自動的に設定します。

環境変数は次のファイルで定義されます。

- \$SYBASE/SYBASE.sh
- \$SYBASE/SYBASE.csh
- \$SYBASE/SYBASE.env

インストーラを終了した後、管理者以外のユーザがソフトウェアを使用する場合など、環境変数を再設定することが必要になることがあります。

これらの環境変数を設定するには、次のいずれかを実行します。

- ソース SYBASE.sh (Bourne、Korn、または BASH シェル) または SYBASE.csh (C シェル) を読み込み、コンポーネントの環境変数を現在のセッションに合わせてその場で更新してから、コンポーネントを呼び出す。
- シェルファイルの環境変数値を更新して、コンポーネントの環境変数を永続的に変更する。

環境変数	説明
<ul style="list-style-type: none"> HP-UX Itanium の場合: \$LD_LIBRARY_PATH \$SHLIB_PATH Linux、Linux on POWER (IBM pSeries) の場合: \$LD_LIBRARY_PATH Solaris の場合: \$LD_LIBRARY_PATH \$LD_LIBRARY_PATH_64 IBM AIX の場合: \$LIBPATH 	Open Client/SAP Open Server ランタイム共有ライブラリとコネクタライブラリへのサブディレクトリパス
\$PATH	SAP Replication Server の実行に必要なディレクトリ (SAP Replication Server 実行プログラムや OCS ライブラリなど) を含む
\$SYBASE	インストールメディアからすべての製品をインストールするホームディレクトリ
\$SYBASE_OCS	Open Client ファイルへのサブディレクトリパス
\$SYBASE_REP	SAP Replication Server へのサブディレクトリパス

runserver ファイル

runserver ファイルは、SAP Replication Server の起動に必要な完全なコマンドラインを含む実行可能スクリプトです。新しい SAP Replication Server を複製システムにインストールすると、**rs_init** により runserver ファイルがインストールディレクトリに作成されます。

runserver ファイル名は、サーバ名に基づいて生成されます。たとえば、**ROME_RS** という名前の SAP Replication Server の場合、runserver ファイル名は **RUN_ROME_RS** になります。

インストール後の作業

SAP Replication Server のアンインストール

製品をアンインストールします。

前提条件

- 管理者権限を持つアカウントを使用してマシンにログインする。
- すべてのアプリケーションとプロセスを停止します。

注意： アンインストーラでは、インストールメディアからロードされたファイルのみが削除されます。 ログファイルや設定ファイルなどの一部の Sybase ファイルは、管理目的で削除されずに残ります。 jre やその他のインストール済みディレクトリは、アンインストーラにより削除されません。 これらのディレクトリは手動で削除する必要があります。

手順

1. アンインストール方法を選択します。
 - GUI モード (推奨)
 - コンソールモード
 - サイレントモード
2. 選択した方法の手順に従います。

GUI モードでのアンインストール

GUI モードでコンポーネントをアンインストールします。

1. 次のように入力します。
`$SYBASE/sybuninstall/RepServer_Suite/uninstall`
2. [次へ] をクリックします。
3. 次のいずれかを選択します。

オプション	説明
[完全アンインストール]	すべてのコンポーネントを完全に削除する。インストール後に作成されたファイルやフォルダは影響を受けない。

オプション	説明
[特定の機能のアンインストール]	アンインストールするコンポーネントを選択できる。

[次へ] をクリックします。

4. アンインストールの概要ウィンドウに、選択した内容が表示されます。内容を確認し、[次へ] をクリックします。

注意： インストール時に SySAM をインストールした場合、ウィンドウに SySAM ライセンスユーティリティが表示されます。 SySAM ライセンスサーバを使用する場合は、SySAM ライセンスユーティリティをアンインストールしないことをおすすめします。

[アンインストール完了] ウィンドウが表示され、削除できない項目が示されます。

5. [完了] をクリックします。

コンソールモードでのアンインストール

コンソールモードでコンポーネントをアンインストールします。

1. コマンドプロンプトで、インストールディレクトリに移動し、次のコマンドを入力します。

```
$SYBASE/sybininstall/RepServer_Suite/uninstall -i console
```

uninstall プログラムが起動します。

2. 表示されるメッセージに従って、アンインストールを実行します。出力が端末ウィンドウに書き込まれるので、キーボードを使用して応答を入力します。

注意： 共有ファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

参照：

- コマンドラインオプション (39 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (47 ページ)

サイレントモードでのアンインストール

サイレントモードでコンポーネントをアンインストールします。

コマンドプロンプトで、インストールディレクトリに移動して、次のように入力します。

```
$SYBASE/sybuninstall/RepServer_Suite/uninstall -i silent
```

uninstall プログラムが起動します。

注意： インストーラ以外で作成したファイルを削除するよう指示するプロンプトが表示された場合は、これらを削除しないことをおすすめします。

参照：

- コマンドラインオプション (39 ページ)
- GUI モードでのアンインストール (47 ページ)

ヘルプと追加情報の取得

この製品リリースの詳細を確認するには、製品マニュアルサイトおよびオンラインヘルプを使用します。

- <http://sybooks.sybase.com/> の Product Documentation - マニュアルのオンライン版であり、標準の Web ブラウザを使用してアクセスできます。ドキュメントをオンラインで閲覧したり、PDF としてダウンロードしたりできます。Web サイトには、ホワイトペーパー、コミュニティフォーラム、メンテナンスリリース、サポートコンテンツなどのリソースへのリンクもあります。
- 製品のオンラインヘルプ (利用可能な場合)

PDF ドキュメントを参照または印刷するには Adobe Acrobat Reader が必要です。Adobe Acrobat Reader は Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。

注意：最新の『リリースノート』と、製品のリリース後に追加された製品およびマニュアルに関する重要な情報は、Product Documentation Web サイトで確認できません。

サポートセンタ

SAP® 製品のサポートを利用してください。

組織でこの製品の保守契約を購入している場合は、サポートセンタとの連絡担当者が指定されています。マニュアルだけでは解決できない問題があった場合には、担当の方を通してサポートセンタまでご連絡ください。

- 地域の Sybase サポートセンタまたは Sybase 子会社
- SAP サポートセンタ

SAP サポート契約を締結しているお客様は、SAP サポートサイト <http://service.sap.com/sybase/support> でこの製品のサポートを取得できます。また、ここから Sybase サポート移行の情報が探せます (ログインが必要なこともあります)。

Sybase サポート契約を締結しているお客様は、<http://www.sybase.com/support> でこの製品のサポートを取得できます (ログインが必要です)。

製品更新版のダウンロード

メンテナンスリリース、サポートパッケージ/パッチ、関連情報を入手します。

ヘルプと追加情報の取得

- Sybase 認定販売店から製品を直接購入した場合:
 - a) <http://www.sybase.com/support> を開きます。
 - b) [Support] > [EBFs/Maintenance] を選択します。
 - c) MySybase のユーザ名とパスワードを入力します。
 - d) (オプション) フィルタ、時間枠のいずれかまたはその両方を選択して [Go] をクリックします。
 - e) 製品を選択します。

鍵のアイコンは、認可されたサポートコンタクトとして登録されていないため、一部の EBF/Maintenance リリースをダウンロードする権限がないことを示しています。未登録ではあるが、Sybase 担当者またはサポートセンタから有効な情報を得ている場合は、[My Account] をクリックして、「Technical Support Contact」の役割を MySybase プロファイルに追加します。

 - f) EBF/Maintenance レポートを表示するには [Info] アイコンをクリックします。ソフトウェアをダウンロードするには製品の説明をクリックします。
- Sybase 製品を SAP との契約に基づいて購入した場合:
 - a) <http://service.sap.com/swdc> を開き、必要に応じてログインします。
 - b) [Search for Software Downloads] を選択し、製品名を入力します。[Search] をクリックします。

製品およびコンポーネントの動作確認

動作確認レポートは、特定のプラットフォームでの Sybase 製品のパフォーマンスを検証します。

動作確認に関する最新情報は次のページにあります。

- パートナー製品の動作確認については、以下を参照してください。 http://www.sybase.com/detail_list?id=9784
- プラットフォームの動作確認については、以下を参照してください。 <http://certification.sybase.com/ucr/search.do>

アクセシビリティ機能

アクセシビリティ機能を使用すると、身体障害者を含むすべてのユーザが電子情報に確実にアクセスできます。

この製品のマニュアルには、アクセシビリティを重視した HTML 版もあります。

オンラインマニュアルは、スクリーンリーダーで読み上げる、または画面を拡大表示するなどの方法により、視覚障害を持つユーザがその内容を理解できるよう配慮されています。

HTML マニュアルは、米国のリハビリテーション法第 508 条のアクセシビリティ規定に準拠していることがテストにより確認されています。第 508 条に準拠しているマニュアルは通常、World Wide Web Consortium (W3C) の Web サイト用ガイドラインなど、米国以外のアクセシビリティガイドラインにも準拠しています。

注意：アクセシビリティツールを効率的に使用するには、設定が必要な場合もあります。一部のスクリーンリーダーは、テキストの大文字と小文字を区別して発音します。たとえば、すべて大文字のテキスト (ALL UPPERCASE TEXT など) はイニシャルで発音し、大文字と小文字の混在したテキスト (Mixed Case Text など) は単語として発音します。構文規則を発音するようにツールを設定すると便利かもしれません。詳細については、ツールのマニュアルを参照してください。

Sybase のアクセシビリティに対する取り組みについては、<http://www.sybase.com/products/accessibility> を参照してください。このサイトには、第 508 条と W3C 標準に関する情報へのリンクもあります。

製品マニュアルには、アクセシビリティ機能に関する追加情報も記載されています。

ヘルプと追加情報の取得

索引

記号

-D フラグと setup
SAP Replication Server 37

C

charsets サブディレクトリ 24
collate サブディレクトリ 24
config サブディレクトリ 24

D

dscp ユーティリティ 43
dsedit ユーティリティ 43

E

Embedded Replication Server システムデータベース (ERSSD) 7, 17
ExpressConnect for Oracle (ECO) 7
ExpressConnect for SAP HANA データベース (ECH) 7, 17
ODBC ライブラリのインストール 38

G

GUI モード
SAP Replication Server のアンインストール 47
SAP Replication Server のインストール 30

I

installation
check upgrade incompatible version 30
標準のソフトウェアコンポーネント 30
interfaces サブディレクトリ 24
IQ InfoPrimer 17

L

\$LD_LIBRARY_PATH 44

\$LD_LIBRARY_PATH_64 44
\$LIBPATH 44
license
サブキャパシティ 13
log.txt ファイル 24, 38

O

OCS-16_0 サブディレクトリ 24
operating system
patch requirements 17
稼動条件 17

P

\$PATH 44

R

REP-15_5 サブディレクトリ 24
Replication Server
GUI モード 25
応答ファイルの使用 25
コンソールモード 25
サイレントモード 25
repserver.diag プログラム 21
requirements
operating system patches 17
オペレーティングシステム 17
ディスク領域 17
response files
installing with, SAP Replication Server 25
コマンドラインモードのインストール 25
rs_init ユーティリティ 42

S

SAP Adaptive Server Enterprise (SAP ASE)
Replication Server システムデータベース用 41
upgrading 41
SAP Replication Server
GUI モード 30

索引

アンインストール、前提条件 47
応答ファイルの使用 25
コマンドラインモードでのインストール
25, 36
コンソールモード 35
コンポーネント 7
サイレントモード 37
サイレントモードでのインストール、無人
36
ライセンス 10
詳細 7
SAP Replication Server インストールメディアの
マウント 29
SAP Replication Server のコンポーネント 7
SAP Service Marketplace (SMP) 10, 30, 38
\$SHLIB_PATH 44
si_reg.xml ファイル 24
\$SYBASE 環境変数 44
Sybase_Install_Registry サブディレクトリ 24
\$SYBASE_OCS 環境変数 44
\$SYBASE_REP 環境変数 44
SYBASE_SAM_CAPACITY 14
SYBASE.csh ファイル 24, 44
SYBASE.env ファイル 24, 44
SYBASE.sh ファイル 24, 44
sybase ユーザ 26
アカウントの作成 26
sybuninstall サブディレクトリ 24
SySAM 30
FlexNet Publisher 11
IPv6 の設定 12
サブキャパシティのライセンス 11
サブキャパシティライセンス 13
ライセンスサーバのバージョン 11
ライセンスのチェックアウト 12
SySAM サブキャパシティ 13
稼動条件 14
SySAM ライセンスサーバ 11
SySAM ライセンスモデル 10
SYSAM-2_0 サブディレクトリ 24
sysamcap ユーティリティ 10

あ

アカウント、sybase ユーザの作成 26

アップグレード
SAP Adaptive Server Enterprise (SAP ASE)
41
アップグレード時
混合バージョンの環境 9
アンインストール
GUI モード、SAP Replication Server 47
コンソールモード、SAP Replication Server
48
サイレントモード、SAP Replication Server
48

い

インストーラ
カスタムインストール 25, 30
起動時のエラー 30
通常のインストール 30
標準インストール、標準 25
フル 25
フルインストール 30
インストール
ExpressConnect for HANA DB 用 ODBC ラ
イブラリ 38
GUI モード 30
Replication Server Data Assurance (DA) オプ
ション 35
Replication Server システムデータベース用
SAP Adaptive Server Enterprise
(SAP ASE) 41
SAP Replication Server の CD または DVD、
マウント 29
SAP Replication Server、-D フラグの使用
37
概要 5
計画 9
サイレントモードまたはコンソールモー
ドでのトラブルシューティング
38
タスクフロー 5
ログファイル、SAP Replication Server 38
インストーラが正しく実行されたかどうかの
確認
SAP Replication Server で 30
インストール後の作業
SAP Replication Server 41

インストールディレクトリ
 内容 24
 インストールの更新の選択 30
 インストールの種類
 カスタム 25, 30
 標準 25, 30
 フル 25, 30
 インストール方法
 Replication Server 29
 インストール前の作業 9
 インストール後のログファイルの確認 41

え

エラー
 インストーラの起動時 30

お

応答ファイル
 SAP Replication Server、作成 36

か

概要
 SySAM サブキャパシティライセンス 10
 SySAM ライセンス 10
 インストール 5
 カスタムインストール 25, 30
 環境変数
 \$LD_LIBRARY_PATH 44
 \$LD_LIBRARY_PATH_64 44
 \$LIBPATH 44
 \$PATH 44
 \$SHLIB_PATH 44
 \$SYBASE 44
 \$SYBASE_OCS 44
 \$SYBASE_REP 44
 dsedit に必須 43
 SYBASE_SAM_CAPACITY 14
 表 44
 設定 44
 管理作業 26

く

グラフィカルユーザインタフェース (GUI) イン
 ストール 25

こ

コマンド
 ソース 44
 コマンドラインでのインストール
 SAP Replication Server 36
 混合バージョンの要件 9
 コンソールモード
 SAP Replication Server のアンインストール
 48
 SAP Replication Server のインストール 35
 応答ファイル、SAP Replication Server のイ
 ンストール 37
 トラブルシューティング 38

さ

サイレントモード
 SAP Replication Server のアンインストール
 48
 サイレントモードインストール
 SAP Replication Server 25
 トラブルシューティング 38
 サイレントモードでのインストール
 SAP Replication Server 37
 応答ファイル、SAP Replication Server のイ
 ンストール 37
 作業、管理 26
 作成
 SAP Replication Server 用応答ファイル 36
 sybase ユーザアカウント 26
 サブディレクトリ
 charsets 24
 config 24
 interfaces 24
 OCS-16_0 24
 REP-15_5 24
 Sybase_Install_Registry 24
 sybuninstall 24
 SYSAM-2_0 24
 サポートするプロトコル 17

し

システム稼働条件 17

索引

システムパッチ
現在インストールされているシステムパ
ッチのリスト 17

せ

製品エディション、タイプ 15

そ

ソースコマンド 44
ソフトウェア、問題の診断 21
ソフトウェアの問題の診断 21

た

対話型モード
応答ファイル、Replication Server のインス
トール 25

つ

通常インストール 30

て

ディスク領域の要件 17
ディレクトリ
Sybase_Install_Registry 30
インストール、構造 21
デフォルト 30
デフォルトディレクトリ 30

と

トラブルシューティング
コンソールモードまたはサイレントモー
ドのインストール時 38

は

バージョンの制限、アップグレード時 9

ひ

非互換バージョンのアップグレードチェック
緊急バグ修正リリース、ワンオフリリー
ス、コントロールドリリース、
インストロメンタルリリース 30

表

システム稼働条件 17
標準インストール 25, 30

ふ

ファイル
log.txt 24, 38
runserver 45
si_reg.xml 30
SYBASE.csh 24, 44
SYBASE.env 24, 44
SYBASE.sh 24, 44
インストールログ、SAP Replication Server
30, 38
複写システムのプラン作成 5
プラットフォーム
mount コマンド 29
プラットフォームごとの mount コマンド 29
フルインストール 25, 30
プログラム
repserver.diag 21

へ

変更
remove si_reg.xml ファイル 24

ゆ

ユーティリティ
dscp 43
dsedit 43
rs_init 42
sysamcap 10, 14

ら

ライセンス
IQ InfoPrimer の統合 17
SAP Control Center 17
サブキャパシティ 14
種類 17
タイプ 15
プロセッサの数のチェック 12
ライセンスモデル 10
取得 10

ライセンスの取得 10
ライブラリ
 SMP ランタイム 17
ランタイムライブラリ 17

り

リリースノート 9

ろ

ログファイル、インストール後の確認 41

